



第16回

# 住まい備忘録

(社)日本建築家協会 沖縄支部 会員

西里幸二 (西設計)

## 施主との会話

私の設計活動はその多くが住宅系で占められている。事務所を設立してから11年目に入るが独立前に勤めていた事務所で

は公共建築物、民間のプロジェクトに関わるものが多く、住宅の設計にはほとんど関わってこなかった。それだけに今の住宅設計との関わりには大きく満足しているし、楽しんで設計活動をしている。私は発注者との会話がことさらに好きだ。初対面の時には時に緊張もする。如何に施主の心をつかむか、又私という人間を理解させるかでこれからの計画、設計に大きく影響するからだ。場面によっては打ち合わせの時間の中の多くを雑談にかけることも多い。施主をリラックスさせることで多くを語ってくれ、また住まいにかける思いを引き出すことが出来る。

昨年末、父親、長男、次男家族の三世帯住宅が完成した。知人からの紹介で施主にお会いしたが父親が70をとうに超

えるご高齢で、この方の主導で計画するのである。もちろん私という人間を理解してもらうために多くを語り、又その中で施主をある程度理解することが出来た、と思っていた。しかし、設計、工事を進めていくなかで考え方がぶつかり合うことが多くあり、その性格をコントロールすることが重要なものとなっていた。押しやり引いたり、の末工事も完成したが、今ではお互いの気持ち、考え方をぶつけ合える先輩としてお付き合いさせていた。ご夫婦とも本土の大学で教鞭をとっていた施主は、沖縄に移り住むことで1年程をかけて土地探しから関わらせていただいた。近隣からはとても建物は立たないと思われていた敷地、傾斜地を計画地として選定した場合にも、自然を生かしながら設計すれば面白いものが出来るという私の勧めにも素直に耳を傾け、技術者としての

私を信頼し、設計させていただいた。ご主人のホームページにも住宅が完成した経緯を紹介し、ついでに私も建築家として紹介していただいた。近隣には有名な文化人が多く住み、その仲間と共に文化活動を積極的に行っている。また傾斜地を利用した庭園では野菜や花を作り、地域活動にも積極的に参加し地域に根ざした生活をしている。

## 相手を理解して家づくりに反映

これまでの設計事例の中で極端なかわりを短く紹介したが、多くの住宅設計に関わりその分多くの施主と出会うことが出来た。そして語りあい、家作りさせていただき、楽しさ面白さを少しでも共有してきたと思っている。

多くの施主に恵まれ多くの経験をさせていたただいたことを私の心の中のノート備忘録に書き込んでおきたい。

生かしながら設計すれば面白いものが出来るという私の勧めにも素直に耳を傾け、技術者としての

多くの施主に恵まれ多くの経験をさせていたただいたことを私の心の中のノート備忘録に書き込んでおきたい。



A邸外観



A邸の玄関アプローチブリッジ